

第2章 三番瀬の再生に向けて講ずべき施策

第1節 干潟・浅海域

かつて江戸川河口の広大な干潟の一部であった三番瀬は、埋立てにより後背湿地が消失し、海域が狭められ、干潟が減少しました。さらに、地盤高の低下により大部分の干潟がなくなり、浅海域化が進みました。また、三番瀬への河川等からの淡水や地下水の流入が減り、汽水的环境の場が減少しました。こうして多様であった三番瀬の自然環境の単調化が進みました。

このことから、かつての三番瀬に近づけるため、海と陸との自然の連続的なつながりを回復させ、さらに環境の多様化を進めることにより、多様な生物がすみ、青潮の発生等による環境の急変からの回復力の強い干潟・浅海域を取り戻し、水質の浄化作用等の諸機能の強化を図ることが重要です。

そのため、三番瀬の水循環を健全化し、土砂供給を回復させ、多様な塩分濃度を有する汽水的な環境の創出や海と陸との自然のつながる場所を増やし、生物種と環境の多様性の回復を目指します。



(ふなばし三番瀬海浜公園前)



(浦安市日の出地先)

「陸と海とのなだらかなつながり」概念イメージ図

